

HGG001-09

会場: 202

時間: 5月23日16:00-16:15

地球地図データを用いたネパール-パキスタン間のヒマラヤにおける地形と土地被覆の関係の解析

Analysis on the relation of landform and land cover in Himalaya between Nepal and Pakistan using Global Map data

佐藤 浩^{1*}, 小荒井 衛¹, 岩橋 純子¹, 中埜 貴元¹

Hiroshi, P. Sato^{1*}, Mamoru Koarai¹, Junko Iwahashi¹, Takayuki Nakano¹

¹国土地理院

¹GSI of Japan

ネパールでは、先行の現地調査によって、北向き斜面と南向き斜面で植生の分布が異なることが既に指摘されている。本研究では、より範囲を拡張して、ネパール-パキスタン間のヒマラヤにおいて、標高の高低を考えながら、斜面方位（8方位）が土地被覆の分布をどのように左右するのか調べた。解析には、SRTM30（Shuttle Radar Topography Mission 30；900m解像度の数値地形モデル）と、地球地図国際運営委員会が推進している地球地図の土地被覆データを用いた。その結果、例えば、1,200-3,000mの標高帯では畑の分布はSとSEに偏り、3,000-5,000mの標高帯では、落葉針葉樹と常緑針葉樹はNとNWに、5,000m以上の標高帯では雪氷の分布はE-SE-Sに偏ることが判った。これらの方位の依存性は、人間活動と自然条件が絡み合っていると考えられる。

キーワード:地球地図,数値地形モデル,土地被覆,植生,斜面方位,地球地図国際運営委員会

Keywords: Global Map, digital elevation model, land cover, vegetation, slope aspect, International Steering Committee for Global Mapping